



## 校訓『共働』に込めた願い

校長 井之上 良一

早速ですが、今回は、予告していたとおり校訓『共働』についての説明をさせていただきます。

まずはじめに、『共働』という言葉を目にされた時に、どのような感想を持たれたでしょうか。おそらく、『きょうどう』の表記が、一般的に用いられている「協働」ではなく、なぜ『共働』なのかということではないでしょうか。



実は、新しい学習指導要領においても「社会との連携及び協働」という具合に、「協働」という言葉が用いられています。「協働」とは、端的に言う、「力を合わせて行動する」、「一緒に働く」という意味です。現在、「協働」の方が使用頻度は高いわけですが、『共働』の方もほぼ同じ意味で使われているようです。

ウィキペディア（インターネット百科事典）によると、『共働』がこのような言葉で使われ出した時代は意外に古く、キリスト教伝播以前のギリシャ時代であったと考えられています。当時は、共同作業あるいは協力という意味で使われることが多かったようです。

時代を経て、『共働』という表記は、現在では、より強い思いを込めて使う場合に用いられるというふうの説明されています。こうしたことを踏まえ、本校においては、「自律した個人や集団、団体等（生徒・学校・保護者・地域など）が相互の良さを発揮し、役割を果たしつつ、連携、協働して課題の解決に取り組むこと」と定義し、一段強い願いを込めて、この言葉を使いたいと思います。

では、なぜ今『共働』ということが必要とされているのでしょうか。身の周りのことを考えてみると、私たちは、家族や親戚、学年・学級集団や学校全体、近隣の学校、家の御近所、班や自治会、地域全体など、あらゆる集団や組織、人間関係の中であって、「助け、助けられ」の支え合いの関係の中で生きています。そして、ある意味、多種多様な共同体の中で運命を共にしています。もちろん、市町村や都道府県、国という単位を当てはめてみても、私たちは市町村民、都道府県民、国民として『共働』の関係の中で存在し、地方公共団体相互、地方公共団体と国も『共働』の関係を形成して成立しています。つまり、私たちは集団や組織の大小を問わず、幾重にもわたって『共働』の中を生きていくということになります。言い換えると、『共働』することなしに人間も社会も成り立たないと言えます。

ここまで述べてきたところで、『共働』ということの意味、あるいは『共働』という関係がいかに大切なものであるかということについて、いくらか感じ取っていただけたのではないかと思います。

今回は、現在が国際化の急速に進化した社会であることを踏まえ、もう少し視野を広げて考えてみたいと思います。そのために、堺屋太一さんの『大変な時代～常識破壊と大競

争～』（1998年、講談社文庫）という著書の中から、世界の工業化を視点とした箇所を引用し、整理して示してみたいと思います。

日本の経済が高度成長を果たし、安定成長期にあったのは、1955年から1980年代頃ですが、1980年代の初期には、電子技術を導入した施設を持つことによって、東アジアの韓国、台湾、香港、シンガポールが飛躍的な工業化を成し遂げました。これらの国などは、当時「四頭のミニドラゴン」と呼ばれました。1980年代の後半になると、同じくアジアのタイ、マレーシア、インドネシアでも工業化が始まりました。「三頭のニュードラゴン」と呼ばれています。

そして、1990年代に入って、ついに中国の工業化が始まります。こちらは「ビッグドラゴン」と呼ばれています。これらアジア各国の工業化は、経済的通説を覆すものであり、当時、驚きをもって受け止められました。というのも、欧米諸国も日本も、工業化を進めるに当たっては、国内の道路・鉄道網などの整備や、初等教育の全国的な普及に相当な時間と資本を費やしました。ところが、後発の工業国においては、電子技術を導入した施設をフルに稼働させることによって、短期間のうちに安価で優良な製品を輸出できるようになったからです。このことは、短い場合には、わずか数年で投資した資本を回収できるということを意味しています。その後、東ヨーロッパ諸国やインドでも同様の工業化が進行していますが、今後はアフリカ諸国においても、条件を整えば短期間のうちに工業化が進展する可能性があります。

このような状況は「大競争時代」と呼称されており、日本がかつての「右肩上がり」から「うつむき加減」の社会に変化したということでもあります。

おそらく、少子高齢化も相まって、今後長きにわたって、経済の大幅な成長は期待できず、むしろ低迷が続くものと思われまます。今般の新型コロナウイルスの感染拡大や大きな震災など、予測が困難な厄災の影響を受け続ける可能性もあります。

それはさておき、「大競争の時代」は、裏返すと「大共働の時代」と言ってもよいのではないかと思います。なぜなら、国をまたいでの人や情報の行き来、物流が活発化した現在では、物の「供給連鎖」が世界的なレベルで張り巡らされており、競争しつつ共働しなければならぬシステムが出来上がっているからです。つまり、国同士、企業同士が相互に依存し合っており、競いつつ支え合っているということです。競争と共働を止揚しつつ、継続していかねばならないのが、これからの社会です。持続可能な社会を構築するという意味からも、『共働』という考え方はますます重要性を増していくものと思います。

最後にひとこと付言します。本県南さつま市坊津出身で玉川学園を創始された小原國芳先生は、同大学の卒業式において、「社会人の第一歩である。本当の人生修行の始まりである。『世の光』、『地の塩』となってくれ。玉川っ子の使命を忘れるな。人生の最も苦しい、いやな、つらい、損な場面を真っ先に微笑みをもって担当してくれ。微笑みをもってだ。」という言葉を残されています。



小原國芳先生による講義

ここに、社会の担い手として、君たちはいかに生きるべきかという哲学がよく示されているわけですが、この言葉に依拠して、改めて『共働』について言及すると、あらゆる問題に対して、常に当事者意識と主体性をもって「共に正直に働く」人をこそ育てていきたいと願っています。

# 1学期の学校評価 (職員・生徒に実施)

(青文字 3.5以上 赤文字 2.5以下)

【評価】 4…十分に達成できている 3…おおむね達成できている  
2…あまり達成できていない 1…ほとんど達成できていない

		職員	生徒
同 学  (知)	明確な目標をもって主体的に学習に取り組み、意欲的に発表、表現している。	3.1	3.6
	自宅学習の時間確保(1年120分、2年150分、3年180分)・質の向上が図られている。	2.7	3.1
	将来の目標をもち、自分の将来設計を立て、その実現に向けて努力している。	3.0	3.4
	各種検定・コンクール等に積極的に参加し、社会的自信を付けている。	3.3	3.0
	模範ノート・模範自宅学習帳の提示、話し合い活動・発表の仕方の提示、様々な人との交流学习などを行い、学び方が身に付くように工夫している。	2.9	
	各種検査、テスト等の分析を生かして、個別の家庭学習課題を付与したり学習内容を工夫したりするなど個に応じた指導の充実を図っている。	3.3	3.9
	キャリア教育の視点から教育活動を見直すなどして生き方指導の充実が図られている。	3.1	4.0
	3年間を通じた計画的な進路指導が実施できている。	3.2	3.7
	ひおき学の充実や地域貢献活動の推進が図られている。	3.0	3.8
	研究授業を通じた実践的研究や校外研修への積極的な参加ができています。	3.3	3.9
共 働  (徳)	心の伝わる挨拶(五あいさつ)ができています。	3.6	3.8
	互いの存在を肯定的に受け止めようとし、誰に対しても公正、公平に接している。	3.2	3.4
	係活動や当番活動、生徒会活動に責任を持って取り組み、協力して活動している。	3.5	3.7
	身の回りの整理・整頓ができ、持ち物の管理ができています。	2.7	3.7
	朝・夕の合唱に意欲的に取り組み、大きく美しい声で歌っている。	2.9	3.7
	考え議論する道徳をめざした授業を実践し、授業における生徒の変容等を記録している。	3.0	3.8
	朝読書やビブリオバトル等の読書活動を充実させ、読書推進が図られている。	3.8	3.8
	構成的エンカウンターやアサーショントレーニング等を取り入れるなどして人間関係能力の育成に努めている。	3.0	3.9
	生徒指導や特別支援教育の実践について共通理解を図り、組織として対応できている。	3.4	3.8
	3つの時刻の定着や家庭のきまり(ネットワーク利用における我が家のルール・一家庭一家訓)の更なる意識化が図られるよう、保護者との連携ができています。	3.0	3.6
琢 磨  (体)	目標を持って体力づくり(朝のランニング、昼休みの運動等)や部活動(外部のスポーツ活動)に積極的に取り組んでいる。	3.0	3.8
	徒歩による登校や家庭での体力づくり(一家庭一運動)ができています。	2.5	3.4
	3つの時刻を守り、規則正しい生活を送っている。	2.7	3.7
	自分の健康状態を把握し、積極的に健康増進や疾病治療に努めている。	3.0	3.8
	災害や事故等への危機意識を持ち、安全に注意して行動している。	3.2	3.8
	ボランティア活動や地域行事に進んで参加している。	3.0	3.9
	生徒会が主体となって行う体育的行事、スポーツ大会等の場を設定し、生徒がスポーツや運動に親しんだり体力づくりに励んだりしようとする態度を育成している。	3.1	3.8
	学活や給食指導、生活点検等を通して、食事や睡眠の大切さを理解させている。	3.0	3.9
	災害や事故を想定した実際の避難訓練が実施できている。	3.3	3.8
	地域行事へ積極的に関わったり、地域や卒業生等の人材を活用したりするなど地域との連携を図っている。	3.1	3.6

※子どもたちの評価は概ね良好で、昨年度よりも1ポイント以上上がっている項目が3つありました。(「同学」の1、「琢磨」の1と4)

3.5以上の項目も前年度より多く、意欲的に学校生活を送っていることが感じられます。

職員と生徒の評価が乖離しているのが「琢磨」の2です。朝のランニングの参加率が高く、子どもたちは体力もついていると思いますが、徒歩による登校をできるだけ継続させていただきますようよろしくお願いします。

## 9月の主な行事予定

月	日	曜	主な行事予定
9	1	火	始業式 身体測定 いじめを考える週間
	2	水	課題・実力テスト
	4	金	小中合同運動会練習開始
	8	火	生徒集会 巡回図書
	12	土	土曜授業(土橋音頭・ソーラン節練習)
	18	金	運動会予行
	21	月	敬老の日
	22	火	秋分の日
	23	水	巡回図書
	27	日	第71回幼小中校区合同運動会

## 70周年実行委員会での決定事項

第1回実行委員会について

(日時・場所)

7月22日(水)18:30・土橋中パソコン室

(参加者)

同窓会長、地区公民会長、自治公民会長 4名、PTA会長、PTA副会長2名、校長、教頭

(協議での決定事項等について)

・予算約60万で、校舎塗り替えに必要なペンキ代等の経費、体育館前スロープ設置の経費、土橋の柱の整備にかかる経費、記念品のファイル作成の経費、英検等の奨励助成金の補助への支出が決定しました。